する運輸省の説明では、ＪＲ西日本は、管内の宮津線など七つの特定地方交通線に対する赤字補てん額は約五億円であったことを明らかにしている。さらに、知事自身も宮津線の収支見通しについて、「赤字額は一億円から二億円」と述べている。

加えてＪＲ西日本は、六十二年度、宮津線を含めた全体で当初見込み七十八億円を大きく上回る大幅黒字となることを明らかにしており、六十三年度収支計画では一三六億円とさらに大幅な黒字を見込んでいる（三月二十九日発表）。

三、宮津線の第三セクター化の決定が「大赤字」を前提の認識として行われてきたことを考えると、その「採算性」についてでさえ重大な疑惑があることが明らかになった今日の段階で、宮津線の経営実態を府民に明らかにすることは、府民に対する知事の責務である。

赤字額が数十億円でなく、一億円から二億円、あるいは黒字であるなら、当然「ＪＲで存続を」という考えも十分成り立つからである。

わが議員団は、以上の経過をふまえ、知事が第三セクター決定ということで一路進むことを直ちにやめ、重大な疑惑について府民に明らかにするため、次の資料を緊急に公表することを強く求めるものである。

1、六十一年度までの旧国鉄時代の宮津線の収支及びその根拠となる資料。

2、ＪＲ西日本による宮津線の六十二年度収支決算見込み及び六十三年度収支見通し。

3、第三セクターによる運営の場合の宮津線の収支見通し及びその根拠となる試算。　以上

一九八八年五月二日

日本共産党・革新共同議員団

京都府知事　荒巻禎一殿

▶宮津線「廃止」のための「大赤字」宣伝がウソだったことを知らせた府議会報告ビラ

大阪ガス京都製造所跡地で発見された平安京初期の寝殿造り遺構の保存についての申し入れ

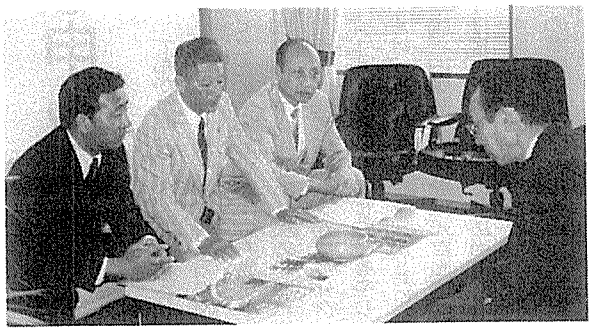
一九八八年五月十日　日本共産党・革新共同京都府議会議員団

京都府知事　荒巻禎一殿

京都府教育委員長　谷口良三殿

今回、大阪ガス京都製造所跡地で発見された平安京初期の寝殿造り遺構は、「平安時代前期の寝殿造りと考えられる遺構は、今日まで絵巻物などの資料復原されていた姿を初めて具体的に明らかにした」もので極めて重要な遺構である。

この発見は、建設史上はもとより、歴史学上画期的な発見と高く評価され、「平安京そのものの展開を考えて行く上で、極めて価値の高い資料を得たと言え、日本住宅史を考察する上でも重要なキーポイントを得たことになる」「寝殿造りに関する本格的な研究は始まったばかりで詳しいことはわかっていない。そうした意味で、今回、発掘された遺跡は大変貴重なものだ。今後の研究の発展のためにも、ぜひ保存してほしい」と、多くの関係者から保存を求める意見が出されている。坊条区画の最小単位である「町」の実態を明らかにするような発掘調査は、都心部に人家の密集している京都では、今後ともあまり期待できないだけに、遺構の全面保存を行い、今後の研究の蓄積による平安京の解明に資することが求められている。



▶申し入れをおこなう太田、野村議員と高橋昭三前府議

京都府中小企業総合指導所（地上5階、地下1階）がこの遺跡のうえに建設が予定されていることからも、京都府および京都府教育委員会の判断が重要である。

埋蔵文化財は、いったん破壊すれば元に戻らない。貴重な国民共有の財産である遺跡、遺構の上での京都府の建設事業は、発掘調査を行ったうえで関係者の意見を聴き、事前に予定されていた設計を再検討するのが当然である。福岡市では古代に外交使節を迎えた鴻臚館の発掘で、平和台球場を全面移転することにしている。

京都府が、平安京の科学的な研究とその歴史を引き継ぐ責任をはたすため、寝殿造りの遺構保存に積極的なイニシアティブを発揮することを求める。

以上